



寺子屋、福先生のつばやき  
 我が子に望む『幸福な人生』とは  
 家庭教育支援ラボ 寺子屋「福」主宰 龍福 史朗



子育ての最終目標は、もちろん、我が子の「幸福な人生」であることは間違いありません。では、私たちが我が子に求める「幸福」とは、どんなものなのでしょう。今回は国際的な尺度を参考に、幸福の核心に迫りたいと思います。

### 短期的幸福感

『人間万事塞翁が馬』

皆さんご存じの有名なことわざですが、「人生の幸不幸は転々として予測不可能である」と言う意味です。要するに、日常の幸不幸は繰り返す訪れるものであり、幸福ばかりでもなく不幸ばかりでもない。例えば、志望校の受験には失敗したが、失望せず立ち直り、滑り止めの学校では常にトップクラスの成績を保ち、3年後には見事、一流大学に合格した！など、何が幸福で何が不幸なのか、長期的には判別はつきません。志望校に落ちた不幸にめげず、新しい環境で精いっぱい頑張った結果、さらに大きな幸福を得る。人生とは、そんなものなのでしょう。私たちの日常は、こうした短期的な幸不幸の繰り返しです。長い人生において、一般的には不幸と思われる出来事も、明るい未来を信じ、前向きに乗り越えることができれば、さらに大きな幸福の糧になることでしょう。しかも、こうした感情は主観に左右されるので、不幸や逆境をどう考えるかによって、幸福感を長期間持続することも可能になります。

次項で取り上げる「長期的幸福感」においても、この主観的満足感は国際的な幸福度の重要な尺度になっています。不幸を不幸と感じない前向きな感情は幸福の源泉でもあります。

### 長期的幸福感

『世界幸福度ランキング』

国連の付属機関が毎年実施しているこの調査では、フィンランド他の北欧諸国が長年、上位を独占しています。(ちなみに日本は62位で、長年、低位に甘

んじている)紙面の都合で詳細は割愛しますが、幸福の尺度を考える上で重要ですので、一部紹介します。

北欧諸国では、人口の半分以上を占める低・中所得層の幸福度が高いため、国全体の幸福度を押し上げています。それに反して、日本やアメリカなど先進諸国は低・中所得層の幸福度が低い。そのため、国全体の幸福度が低くなっているのです。他に日本の幸福度の低い尺度として、主観的満足感(人生評価について楽しいか、辛いか)、安心感(経済、健康、教育)、自由度(職業や教育の選択)などがあります。北欧諸国では、普通に働いていけば、老後の生活や医療、教育費の心配はなく、生涯安心して暮らすことができるので、安心感に関わる幸福度が高いのです。また、自分に適した職業を自由に選択する制度や職業教育が充実しているので、生涯にわたって職業の満足度も高いのです。要するに、私たちの日常において、こうした国際的尺度での満足感が高ければ、客観的に「幸福である」と言えるのではないのでしょうか。

### 真実の幸福を求めて！

以上のことから「短期的不幸を人生の試練と前向きに捉え、不幸と思わないこと」「自分の才能や得意分野を見つけ、自己実現を図るべく努力を継続すること」によって、『幸福な人生』が実現できると考えます。

読者の皆様にとつて、本稿が少しでもお役に立ち、新しい年が幸福に満ちたものになりますよう、祈念しています。

家庭教育支援ラボ  
 寺子屋「福」  
 宇都宮市 滝の原 1-1-1  
 株式会社ダイワ内  
 Tel:028-633-4534  
<http://kosodateclub753.com>

